



行政報告

市議会12月定例会が11月28日に召集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から主なものの要旨をお知らせします。

大館管内の就職内定率が県内最高

市内高校の来春卒業予定者で就職希望者は247人、うち県内希望者は94人です。県内企業への就職内定率は83%となっており、昨年同期比13ポイント上回っています。また、県外希望者153人の内定率は92・8%に達し、全体では89・1%と、いずれも昨年同期を大幅に上回っています。内定率の全県平均は63・9%で、中央・県南と比較して県北が高く、とりわけ八ローワーク大館管内が最高となっています。

大館市工場等設置促進条例に基づく指定工場の従業員数の調査結果

10月1日現在の指定工場数は59事業所で、従業員数は3,926人。今年4月時点より42人、昨年10月時点より161人増加しています。これは、ニプログループによる継続的な設備投資に伴い雇用の拡大が図られたことが大きな要因となっています。

ニプロ株式会社では、拡張整備事業が



ニプロ株式会社の大規模設備投資事業がスタート

完了した県営大館工業団地で、新たな大規模設備投資事業に着手しており、最初の工場棟が来年の春から稼動する予定です。また、ニプロファーマ株式会社でも、

原薬精製棟、凍結乾燥剤棟が来年の春から稼動する予定で、今後さらなる雇用の増加が見込まれます。

有浦スポーツ館の廃止と有浦児童会館の建設計画

有浦スポーツ館が、老朽化により危険な状況にあることが判明し、利用を停止しました。その後の調査の結果、改修による継続利用が困難であるため、廃止・解体することになりました。

一方、有浦児童会館は、児童集会所のみを改築し有浦スポーツ館とつなぎ、遊戯室として利用する予定でしたが、同スポーツ館の廃止・解体により、計画を変更して改築することになります。来年4月に開館を予定していた有浦児童会館は、児童会館の機能に加え、地域の皆さんが家庭パレーボールや卓球などのスポーツのできる施設として、同年9月下旬に開館する見込みです。

豪雪被害の果樹を除き、農作物はおおむね平年並み

7月の日照不足と8月の高温乾燥による農作物への影響が心配されましたが、その後は天候が良好に推移し、豪雪で大きな被害を受けた果樹を除き、農作物はおおむね平年並みの生育状況です。

東北農政局が公表した水稲の作況指数は、県北で100の「平年並み」で、また、心配された病害虫被害は、農家の防除努力により昨年より比べ少なく、JAあきた北管内の1等米比率は、昨年より10

ポイント程向上し、11月9日現在で87・5%となっています。野菜の生育はおおむね平年並みです。価格は、5月29日から施行したポジティブリスト制度により、国産青果物の安全性が見直され、高めに推移しました。

果樹は、豪雪の被害による収量的大幅な減少が心配されましたが、生産者の努力により、リンゴは90%程度の収量を確保できました。ナシは、雪害に加え日照不足の影響を受け、収量は75%程度で、小玉傾向となっています。

米の生産調整は、提示されていた生産目標数量を達成できる見込みです。来年度から各農家への配分は、国の「新たな需給調整システム」として、農業協同組合等が行うこととなっていて、移行に向けた調整を進めています。

御成町南地区土地画整備事業がスタートします

「御成町南地区土地画整備事業」は、これまで事業区域を再三にわたり見直すなど、紆余曲折を経てきましたが、11月10日付けで知事から事業認可を受け、いよいよスタートを切ります。

本事業は、住民の生活環境の向上と商店街の活性化に寄与するものです。総事業費52億円の大規模な事業であるため、地元経済に大きな波及効果をもたらすと考えています。

今後、数年を要する先行買収の間に、説明会や「区画整理ニュース」の発行などで、市民の皆さんにより深く理解していただけるよう努めます。